

普及現地情報



発信年月日：令和4年(2022年)10月26日
所属名：大津・南部農産普及課
番号：A22009
部門分類：150(野菜)
発信者名：野菜担当(主：川村、坂尾)

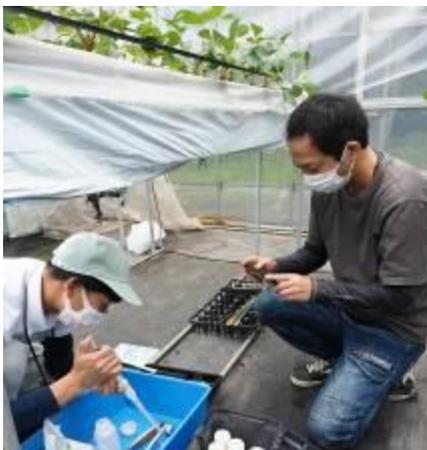
イチゴの収量向上に向けて生育診断支援を開始

当課が7月27日に開催した研修会でイチゴの収量を向上させる栽培管理に興味を示した管内のイチゴ生産者8名に対して、生育診断の支援を開始しました。

管内イチゴ生産者ハウスにおいて、他地域で一定の成果が出ている生育診断を活用した施肥管理技術を参考にした実証を始めました。頂花房の開花後にイチゴの体内に貯蔵された養分は大きく消耗するため、これを補って第一次腋花房の凋落^{ちょうらく}を抑え、中休み(1～2月に収穫がなくなる現象)の予防に努めるのが実証の要点です。そのために、出蕾期に入ったほ場で硝酸態窒素濃度の測定による株内の生育診断を行い、これからの施肥管理の検討と助言を行いました。

生産者も施肥濃度と給液時間だけではなく、イチゴ体内の硝酸態窒素濃度を指標とした管理について意欲的に取り組まれています。既にイチゴ体内の硝酸態窒素濃度が低下し始めているほ場もあり、今後の施肥管理で指導していきます。あわせて出蕾後も、ミツバチの導入、炭酸ガス施用、摘果管理、病虫害防除などの重要な作業について巡回指導を行います。

当課では、数値に基づいた栽培管理で生産者の所得向上につながるよう、今後も情報を共有し支援していきます。



農家とともにイチゴの硝酸態窒素濃度分析を行う当課職員



出蕾期を迎えたイチゴ